

# 生物多様性の現状と課題

## 生物多様性とは

生きものたちは、長い時間をかけて進化し、みんな異なった「個性」を獲得してきました。そして、お互いの個性を活かした生きものどうしの「つながり」が、現在の地球の環境を支えています。この「生きものの個性がつながり賑わっている」ことが生物多様性です



生物多様性には、大きく分けて3つの捉え方があります

### 生態系の多様性

森林、湿原、河川、干潟等さまざまなタイプの自然があります。それぞれの場所には、その自然環境に応じた生態系があります



溪流



棚田



里山林

### 種の多様性

種は生物を分類するもっとも基本的な単位です。それぞれの種は環境に適応してきた進化の産物であり、すべてが現在の生態系を支える役割を担っています



シモツケコウホネ



イヌワシ



ニッコウイワナ

### 遺伝子の多様性

同じ種であっても、地域によってからだの形や特徴が少しずつ違います。こうした違いは、環境の変化などに対抗する力を備えていることを意味します



ゲンジボタルは西日本と東日本では発光周期が異なります

## 生物多様性はなぜ重要か

多様な生きものたちは、それぞれが生態系の中で大切な役割を持ち、互いに影響しあって、自然環境のバランスを維持しており、私たち人間の生活は、この生物多様性から得られる食べ物、木材、衣服、医療品等の恵みによって支えられています。また、文化や芸術、レクリエーションの対象ともなっています。



水の浄化作用



木材の集積



自然とのふれあい

## 生物多様性の危機

日本は豊かな緑に覆われていますが、様々な要因により、生息生育する多くの野生生物たちに絶滅のおそれがあると言われています。

### 第 1 の危機

生物の乱獲や土地の開発など、人間活動や開発による生態系の破壊や種の減少・絶滅



開発や乱獲により、絶滅の危機にあるミヤコタナゴ

### 第 2 の危機

里地里山など、生活様式の変化や高齢化などにより、人間の手が加えられなくなったことによる自然の質の低下



手入れ不足により荒廃した里山

### 第 3 の危機

人間の手によって持ち込まれた外来生物の影響による生態系の攪乱

特定外来生物  
アライグマ

県版レッドデータブックからみたとちぎの生物多様性の現状

県内でも、人間活動等による個体数や生息生育地の減少、身近な自然である里地里山の荒廃、外来生物による生態系への影響などにより、野生生物の絶滅のおそれが高まっています。

県内の絶滅のおそれのある野生生物の種（ABCランク）の割合



円の中心は、栃木県自然環境基礎調査による確認種数  
維管束植物以外には、蘚苔類、藻類、地衣類、菌類、変形菌類が含まれる

維管束植物の1割強、哺乳類、鳥類、爬虫類、魚類、貝類の2割強、両生類の3割強に絶滅のおそれ

本県の課題

- 野生生物の生息生育地の保全  
希少な野生動植物の保護
- 県民協働による保全再生の推進  
生物多様性に配慮した農林水産業の推進
- 外来生物の駆除  
ペットの屋外放逐防止の普及啓発

↑ ↓ 実現性を高めるための課題

県民生活や事業活動への浸透

- 第1の危機  
人間活動や開発による危機
- 第2の危機  
人間活動の縮小による危機
- 第3の危機  
人間より持ち込まれたものによる危機

共通するもの  
生物多様性に関する認知度の不足

生物多様性の3つの危機